

プレスリリース

石内都 絹の夢

Ishiuchi Miyako
SILKEN DREAMS

2012年10月7日(日)–2013年1月6日(日)

休館：2012年12月25日(火)–31日(月)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

展覧会に関するお問い合わせ及び資料のご請求先：
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
担当＝松村円

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
tel:0877-24-7755
fax:0877-24-7766
<http://www.mimoca.org/ja/press/>

【展覧会概要】

展覧会名： 石内都 絹の夢
Ishiuchi Miyako: SILKEN DREAMS

会場： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室C

会期： 2012年10月7日(日)－2013年1月6日(日) (85日間)
休館：2012年12月25日－31日

開館時間： 10時－18時 (最終入館17時30分)

主催： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

助成： 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、財団法人自治総合センター、独立行政法人日本芸術文化振興会

協賛： 株式会社資生堂、株式会社ニコン、株式会社カシマ、近藤酒造株式会社

協力： 桐生織塾、後藤織物、株式会社桐生タイムス社、碓氷製糸農業協同組合、植物染織工房横山、株式会社エークロッシング

観覧料金： 一般950円 [760円]、大学生650円 [520円]
* [] 内は前売り及び20名以上の団体料金
* 常設展観覧料を含む
高校生以下または18歳未満・丸亀市内在住の65歳以上・各種障害者手帳お持ちの方は無料

前売券販売場所：

[丸亀] あーとらんどギャラリー (0877-24-0927) オークラホテル丸亀 (23-2222) おみやげSHOP ミュー (22-2400) きままや (22-9361)

※2012年11月23日(金・祝)は開館記念日のため観覧無料

【展覧会趣旨】

石内都は写真集「APARTMENT」で1979年に木村伊兵衛賞を受賞して以来、発表を続け、2005年に母の遺品を撮影した「Mother's」でヴェネツィア・ビエンナーレ代表、2009年には広島平和記念資料館の寄贈資料を撮った「ひろしま」で毎日芸術賞を、また2011年には第60回神奈川文化賞を受賞するなど現在まで意欲的に撮り続けている写真家です。個人の思いに端を発し、独自の視点で対象を捉えた作品は、人々の奥底で共有される普遍的な感覚を刺激し、共感されてきました。

石内は「mother's」に続いて、広島の被爆資料のワンピースなどを撮った「ひろしま」を制作する過程で多くの絹織物に接したことにより、絹への関心呼び起こされました。さらに6歳までを過ごした群馬県桐生市が織物の産地であることから、2010年より絹を題材として銘仙や繭、織物工場、製糸工場などの撮影を始めます。明治・大正・昭和にかけて流行し、絹を着る喜びに満ち、生き生きとファッションを楽しむ当時の女性たちを垣間見せるような銘仙、そして日本を支えてきた生糸産業の現況を踏まえ、石内の目は様々な過去と現実を織り込みながら、なお美しく色あせずに現存する近代日本の夢の跡形として絹を捉えました。撮りおろし新作の「絹の夢」は、石内の個人史と近現代史が交差した新たな展開となります。日本初展示の「ひろしま」を含む新作46点と映像作品を出品します。

※出品作品例の広報用画像をご希望の際は、データにてお送りいたしますので、当館ウェブ上のプレス用ページ (<http://www.mimoca.org/ja/press/>) よりお申し込みください。なお、著作権の都合上、画像をご掲載の際は必ずクレジット等のご記載もあわせてお願い申し上げます。

[トピックス]

1. 待望の新作

《絹の夢》は本展で初めて公開されます。《Mother's》で亡き母の遺品を撮影した石内は、続いて2007年から広島の被爆者の遺品を撮影したシリーズ《ひろしま》に取りかかります。残された衣類の多くが絹製品であったことから絹に関心を持ち、絹を撮りたいと考えたことで2010年から繭、製糸工場、織物工場、銘仙といった絹にまつわるものの撮影を開始しました。なかでも絹を着られるという女性たちの喜びが込められた銘仙を撮影した作品は本展の軸をなすものですが、くず繭からとられる絹糸で織られるため、次の世代へとあまり受け継がれることがないにも関わらず今に残る銘仙は、無名の女性たちの遺品とも言えます。《絹の夢》は「遺品」と「絹」というキーワードを通じて前2作に連なる新作です。

2. 出身地、群馬県桐生市を撮る

デビュー作《絶唱・横須賀ストーリー》で、幼少期から思春期を過ごし、嫌悪の対象であった横須賀と向き合った石内が、本シリーズでは生まれた土地である群馬県桐生市へと目を向けました。《ひろしま》の撮影をきっかけに絹への関心を呼び起こされましたが、自身が生まれ6歳までを過ごした群馬県桐生市も織物の町として知られ、本展出品作の多くは桐生市内で撮影したものです。絹という題材を得た石内によって、桐生は近代から現在までの歴史の起伏のなかに位置し、時代の変遷を透かし見ることができる場所として見出されています。

3. 絹から見る社会

明治・大正・昭和と流行した銘仙の、従来の美意識を覆すような奇抜な柄、色遣いを撮影した作品は、日本の近代化が進み、社会が変化するにつれて女性の活躍の場がひろがる、そういった時代の女性たちの期待と熱気とを私たちに伝え、それらを身につけていた無名の女性たち一人ひとりの存在を強く感じさせます。さらに現在、稼働している織物工場や製糸工場の作品も含むことで、《絹の夢》は、人々の生活、日本の近代産業の盛衰をも考えさせるものとなっています。

[関連プログラム]

1. 対談：石内都×黒川創（作家）

「繭／絹／織ー日本近現代史を語る」

日時：10月7日（日）14：00ー

場所：2階ミュージアムホール

定員：170名（先着順）

聴講料：無料

2. 親子のためのギャラリーツアー

美術館でのマナーから作品をみるコツまでを教育普及担当スタッフがお話します。親子で一緒に作品を楽しみましょう。

日時：2012年10月13日（土）、11月10日（土）、12月15日（土） 11:00-12:00

対象：子どもと保護者

定員：各回20名

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です。高校生以下または18歳未満は無料）

申込：不要（1階受付前にお集まりください）

3. 和服の日

松の内は和服で美術館へ。期間中、和服をお召しになってご来館された方は観覧無料になります。

期間：2013年1月1日（火・祝）～6日（日）

*1月6日（日）は作家来館の予定です。詳細が決まり次第当館ウェブサイトにてお知らせします。

4. キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（松村円・中田耕市）が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

日時：会期中の日曜日（10月7日を除く） 14:00-

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込：不要（美術館1階受付前にお集まりください）

〔作家紹介〕

石内都

【略歴】

- 1947 群馬県桐生市に生まれる
- 1953 横須賀に転居
- 1966 多摩美術大学デザイン科に入学
- 1970 多摩美術大学デザイン科織コース中退
- 1976 横須賀の写真撮影を始める。
- 1977 個展「絶唱・横須賀ストーリー」(ニコンサロン、東京)を開催。
- 1978 個展「アパート」(ニコンサロン、東京)開催、写真集『APARTMENT』(写真通信社)刊行。
- 1979 写真集『絶唱・横須賀ストーリー』(写真通信社)刊行
- 1980 個展「連夜の街」(ニコンサロン、東京)開催。翌年、写真集『連夜の街』(朝日ソノラマ)刊行。
- 1988 1947年生まれの女性の手足と顔《1・9・4・7》の撮影を始める。1990年に写真集『1・9・4・7』(IPC)刊行。この後、身体に残る傷痕を撮影した《SCARS》、《INNOCENCE》を続ける。
- 2002 母の遺品を撮影した作品《Mother's》の個展「Mother's」(中京大学アートギャラリー C スクエア、愛知)を開催。
- 2005 第51回ヴェネツィア・ビエンナーレに日本代表として参加。「mother's 2000-2005 未来の刻印」を開催。同タイトルの写真集を淡交社より刊行。
- 2007 広島平和記念資料館に収蔵された被爆者の遺品の撮影を始める。
- 2008 個展「石内都、photographs 1976~2003」を開催。《絶唱・横須賀ストーリー》から《Mother's》までを網羅し、チェコ、オランダ、フランス、イギリスを巡回した大規模な国際巡回展。
写真集『ひろしま』(集英社)を刊行、展覧会「ひろしま Strings of Time」(広島市現代美術館)を開催。以後、国内各地で《ひろしま》の個展を重ねる。
- 2011 個展「ひろしまhiroshima BY ISHIUCHI MIYAKO」(ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館、バンクーバー・カナダ)を開催。
- 2012 『石内都：絹の夢』(青幻舎)刊行。フリーダ・カーロ遺品写真集を準備中。
- 現在 東京在住

【受賞歴】

- 1979 第4回木村伊兵衛写真賞
- 1999 第11回写真の会賞、第15回東川賞国内作家賞
- 2003 第15回写真の会賞
- 2006 日本写真協会賞作家賞
- 2009 第50回毎日芸術賞
- 2011 第60回神奈川文化賞

【パブリックコレクション】

川崎市市民ミュージアム
九州産業大学
国立国際美術館
東京国立近代美術館
東京都現代美術館

東京都写真美術館
徳島県立近代美術館
栃木県立美術館
横浜美術館
国際交流基金
北海道東川町フォトフェスタ
カナダ国立美術館
サンフランシスコ近代美術館
シカゴ美術館
ニューヨーク近代美術館
ポール・ゲッティ美術館
メトロポリタン美術館
ヨーロッパ写真館
ほか

[展覧会等のお知らせ]

■同時開催展

常設展 猪熊弦一郎展

会 期： 2012年10月7日(日)－2013年1月6日(日) 休館：2012年12月25日－31日

■次回開催企画展

猪熊弦一郎展 変化と不変（仮称）

2013年1月13日(日)－3月31日(日)（予定） 会期中無休